

日観連 2008年秋季 旅館営業概況調査

定員稼働率の下降 顕著に

調査期間 = 9 ~ 11月、回答数 = 242軒

主要観光地 地域・規模別営業概況

Table with columns for region (e.g., 北海道, 東北), scale (大規模, 中規模, 小規模), and metrics (総宿泊単価, 宿泊単価, 定員稼働率) for 07 and 08 years.

主要観光地所在の会員施設を対象にした調査の結果、今回の回答施設数は242軒。定員稼働率を旅館の規模別で見ると、大規模(80室以上)が41.7%、中規模(30~79室)が37.8%、小規模(29室以下)が31.6%だった。特に小規模が前年同期より大幅にダウンした。

1日1室当たり売上高

Table showing average revenue per room per day (1日1室売上高) by region and scale for 07 and 08 years.

総宿泊単価、ほぼ横ばい

日本観光旅館連盟(佐久間連会長、3890会員)は、2008年秋季(9~11月)の旅館営業概況調査の結果をまとめた。景気後退を受けた旅行の手控え、地震の風評被害などによる東北エリアの低迷などがあり、定員稼働率が前年同期比2.9%減の39.6%に下降した。総宿泊単価(客1人当たりの総売上)は、同0.3%増の1万6833円とほぼ横ばい。宿泊単価(客1人当たりの基本宿泊料)はやや上昇し、同0.6%増の1万2153円だった。

一方で、北陸、九州は年7月には新潟中越沖地震は同3.9%増の40.4%、07震があったことから北陸、%に上昇、NHK大河ドラマ「篤姫」で注目を集めた九州は同3.1%増の39.3%となった。総宿泊単価は、大規模旅館では同0.9%増の1万7244円とわずかに上昇したが、中規模は同0.6%減の1万5242円、小規模は同1.6%減の1万9527円に下降。中・小規模は基本宿泊料を示す宿泊単価も微減となった。

調査データ 北海道 円高による外国人宿泊者数の減少とソリン高などによる道内客の減少、東北 地震で9月にキャンセルが続いた。中部 景気減速の影響で製造業関連の団体客が減少。北陸 前年の地震の影響から回復基調。中国 石見銀山の世界遺産登録の効果がなくなっただけで、外国人客(特に韓国)の落ち込みが大きい。九州 大河ドラマの効果があつた。

主要観光地 月別営業概況

Table showing monthly business trends (月別営業概況) for major tourist areas, including total average price, average price, and staff utilization rate for 07 and 08 years.

主要観光地別営業概況

Table showing business trends by major tourist area (主要観光地別営業概況), including total average price, average price, and staff utilization rate for 07 and 08 years.

調査データ